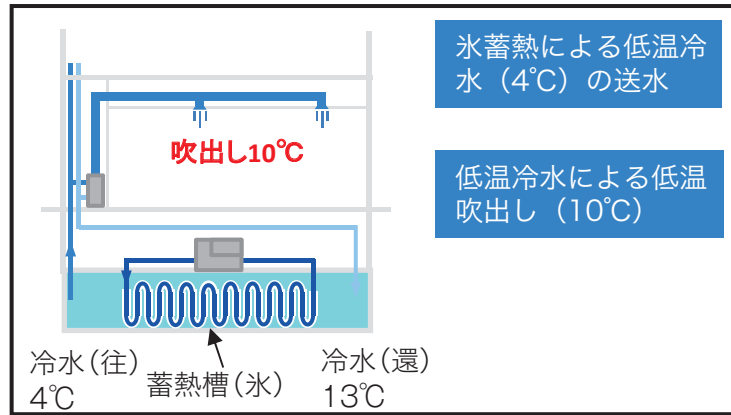


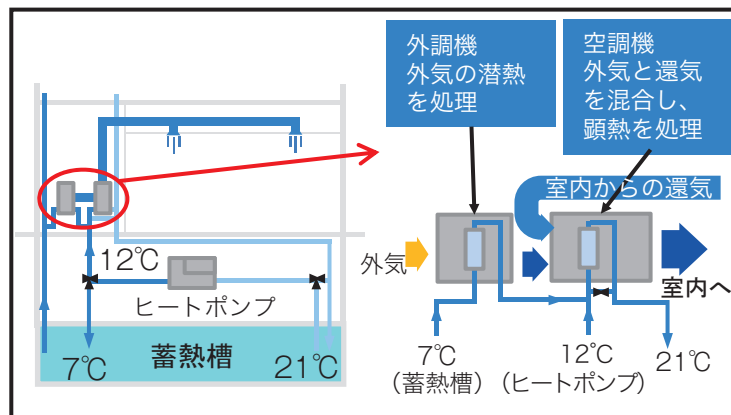
クールビズやピーク電力削減に対応した 二次側システム

■低温冷風空調システム



- ・低温送風による送風量の低減によりファン動力の低減が可能
- ・低温低湿度の送風によってクールビズでも快適性を確保
- ・送風量の低減によるダクト径および空調機の縮小
- ・吹出口からの冷風拡散に対する工夫が必要

■潜・顕熱分離空調システム (+ 超大温度差蓄熱)



- ・ヒートポンプは夜間は7°Cの蓄熱運転、昼間は高効率な12°Cで追掛運転。
 - ・蓄熱槽の7°C冷水によって外調機で外気の除湿（潜熱処理）、空調機は顕熱処理だけを行うため低温冷水は必要なく12°C程度で十分
 - ・外調機と空調機の冷却コイルを直列につなぐことで蓄熱槽をより大温度差に利用可能
- 省エネのポイント
- ・ヒートポンプの追掛運転の高効率化
 - ・大温度差利用による搬送動力の低減
- ピーク電力削減のポイント
- ・昼間の追掛運転は低温冷水が必要ないため通常より高COP運転が可能

ヒートポンプ・蓄熱システムは空調二次側システムと一体で検討することによって、より省エネ・ピーク電力削減を図ることができる。